



公益財団法人
ダスキン愛の輪基金
2019年度(第39期)
事業報告書



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

心豊かに暮らせる社会を願って



合掌 日頃は愛の輪運動へのご支援ご賛同を賜り、心より感謝申し上げます。

国際障害者年が定められた1981年に、「めい あい へるぷ ゆう」(何かお手伝いできることはありませんか?)との思いで始まりました愛の輪運動は、今年で40年目を迎えます。

40年前の私達の小さな願いが、多くの方々への願いへと広がり、愛の輪運動は大きな輪になってきております。多くの皆様にご支援、ご賛同を賜り、活動を拡大・継続させていただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

現在、「ダスキン愛の輪基金」では、主に二つの事業に取り組んでいます。

一つは、財団設立時から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」。

地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に派遣する事業です。

帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パラリンピック選手など様々な分野で活躍されています。

もう一つは、1999年より実施している「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、障がい者福祉を学んでいただく事業です。

帰国後は母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの事業への取り組みや研修生の様子などは、ダスキン愛の輪基金公式Facebookページなどを通じて、広くお知らせしております。

これらの活動は、会員の皆さまからの会費やミスタードーナツ店舗などでの募金、そして多くの方々からの献金と、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの温かな支えによって続けることができいております。

これからも公益財団としての社会的責任を果たし、“愛の輪の活動”をより多くの方にご理解いただくための取り組みを行い、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてまいります。

今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

理事長 **山村輝治**



ダスキン障害者リーダー育成 海外研修派遣事業

事業発足後、39年間で521名の研修生を 海外17カ国に派遣。第39期は個人研修生2名、 グループ研修生7名を研修派遣しました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の 構成 (521名)

地域別(応募時)

北海道	9名	北陸	13名
東北	28名	近畿	102名
北関東	62名	中国	21名
南関東	59名	四国	15名
東京	121名	九州	42名
東海	49名		

障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	115名
聴覚障がい	99名
盲ろう	2名
肢体不自由	205名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	4名
発達障がい	1名

海外派遣先別

アメリカ	400名
イギリス	32名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	14名
ドイツ	11名
カナダ	9名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	4名
ノルウェー	3名
デンマーク	3名
フランス	1名
フィリピン	1名
ロシア	1名
大韓民国	1名
コスタリカ	1名

ミドルグループ研修

【グループ名】STEっ子視察団

【研修先】アメリカ: Access Living, CDR, Access Board, ADAセンター、ギャローデット大学、ロチェスター工科大学

【研修期間】2019年7月17日～8月1日

【研修内容】「クロスマイノリティ」の実践現場から学ぶ次世代の当事者運動

- ・多様な人々が参加する運動のあり方を学ぶ
- ・自立生活センター内の「実践」を確実に持ち帰る

田中 鈴音さん (聴覚障がい)
グループリーダー



研修では、CILに関わる多くの聴覚障がい者と出会えました。CDRではろう・盲ろう者向けの通訳/通訳

介助サービスを担っていて、ろう者や盲ろう者が地域生活を送るためのサービスを提供しています。ここでの会議では手話通訳はもちろん、文字通訳など個人のニーズに合わせた対応を徹底しており、誰も取り残さないという姿勢が強く伝わってきました。

曾田 夏記さん (肢体不自由)



障がい者運動はもっと外に出ることが大切だと学びました。アメリカの障がい者運動の強さは「ADA法を作る

時に多様な人が参加したことが出発点」という話を、多くの場面で耳にしました。これからは差別を学ぶために足を運び、さまざまな人と交わり、信頼関係と相互理解の中で同じ目的のために一丸となれる、次世代の障がい者運動を作っていきたいと思います。

工藤 登志子さん (肢体不自由)



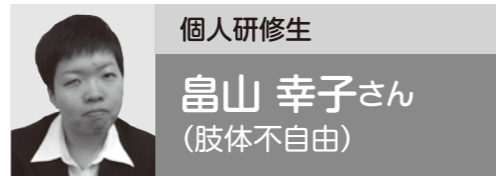
多くの障がい者リーダーとお会いして気づいたのは、どのリーダーも常に自分以外の誰かのために本気で行動していること。また、それぞれのバックボーンが異なっているにも、「誰も取り残さない」という共通理念があれば安心してつながっていただけることを実感しました。この研修で得た知識や気づきを大切に、これからの活動に生かしたいと思います。

2020年3月中旬、新型コロナウイルス感染拡大のため、
2名の個人研修生は一時帰国いたしました。

研修目的である障がい児教育支援以外にも、 障がい者に対する価値観の違いを感じました。

私はカリフォルニア州のサクラメント郡を中心に研修を行いました。研修目的である教育支援以外にも、障がい者に対する価値観の違いを感じました。生活をしていて驚いたのは、歩道には必ず黄色や黒などさまざまな色の点字ブロックのような印で段差がない道が作られていること。また、お店にはほとんど車いすマークが貼られており、気づいた人が助けることが当たり前という考え方を感じました。研修先では、アメリカの教育支援の仕組みや、NPO団体や障がいの専門家が児童のためにチームを作

り活動する仕組みを学びました。他には、障がい者の権利運動の歴史や州憲法、政府機関と障がい者のつながりについてインタビューをしたり、学習支援にまつわる展示会に参加して実物を見ることができました。支援機関が持つ施設や小学校の学童の子供たちは、車椅子の私に特に驚くこともなく、一人の人として話しかけてくれました。これは、小さな頃から街中に障がい者がいること、街中がとてもアクセシブルであることが理由だと思いました。



個人研修生
山 幸子さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ: Sacramento Autistic Spectrum and Special Needs Alliance
【研修期間】2020年1月25日～3月19日
【研修テーマ】アメリカにおける障がい児教育の支援のあり方



国際的なメンタルヘルス研究の最前線に触れ、 世界共通の課題に取り組む方々との出会い。

研修では、マサチューセッツ州ボストンに滞在してハーバード大学メディカルスクールに通い、国際保健を専攻する研究科の「グローバルメンタルヘルス」分野の研究室に所属しました。研究内容は「若者にとって精神疾患の予防策とは何か?」ということで、世界的に見ても精神疾患を20代前半までに経験する人が多いという問題を背景としています。私自身がもっと若いときにちゃんとした知識や対処を知っていたら現状が違っていたかもしれない、そんな原体験も関係しています。ところが、本格的に研究活動を頑

張ろう!と気合を入れたところで、新型コロナウイルスの影響により、わずか1か月でアメリカを去ることになりました。早期帰国は残念でしたが、帰国後もオンラインで専門の授業を受けたり、教官や研究室メンバーとやりとりを続け、自分ができることに取り組みました。オンライン授業では、世界各地から参加したと意見交換できたことも大切な経験となりました。今回の研修を通して、いつどこでも、その場でできる自分のベストを尽くすことが何より重要なのだと学びました。



個人研修生
木本 友里さん
(精神障がい)

【研修先】アメリカ:ハーバードメディカルスクール
【研修期間】2020年2月14日～3月17日
【研修テーマ】インクルーシブな社会構築の考察のために、精神障がい福祉の国際水準と実践について学ぶ



ジュニアリーダー育成グループ研修 視覚障がい者ユースプログラム

ジュニアプログラムの第3回目となる2019年度は、
4名の生徒を10日間イギリスに派遣。
「イギリス文化と視覚障がい者のアクセシビリティ」を
学ぶ研修を行いました。

【研修先】イギリス:オールダム教育局、英国盲人協会等
【研修期間】2019年8月1日～10日
【研修テーマ】①日常生活・情報・文化・教育・就労等における障がい者のアクセシビリティについて
②障がい者の自立に向けた努力や取り組み
③障がい者リーダーの活動状況や想い
④異文化体験
⑤自立への意識・コミュニケーション力・他人への思いやり・リーダーシップ等の向上

近藤 悠斗さん



今回の研修で、今後取り組みたいことを見つけれました。それは、世界中の視覚障がい者がより強いつながりを持って、協力できるようにすること。各国それぞれの取り組みは、他の国の視覚障がい者の学習や生活の改善にきっと役立つと思います。また、自分の目標である理系教育では、実験方法などを世界規模で工夫・改良できれば、視覚障がい者教育の発展につながるはず。研修は終わりましたが、いま新たなスタート地点に立っていると感じています。今回の貴重な機会を活かしてこれからも頑張りたいと思います。



野呂 美遥さん



この研修では、多くの人に出会う機会があり、多くのアドバイスをいただきました。毎日いろいろな方から話を聞き、優しい言葉をかけてもらい、たくさんの影響を受けたので、10日間がとても短く感じられました。英語で話したり、お店で食事をしたり、街中を歩いたりという、外国で生活するひとつひとつの体験が、すべて自分の自信につながったように感じています。研修に参加する機会をいただいたことは、まさに私の大きな財産。学んだことをこれからの糧にして、社会に貢献できる人間になりたいと思っています。



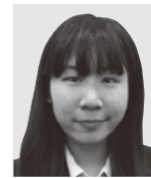
坂本 奈々美さん



研修は出会いと発見の連続でした。たくさんの方とお会いし、貴重な場所を訪問でき、スタッフの方から周りの様子を詳しく教えていただき、学ぶことや吸収できることで溢れていました。イギリスで過ごした10間は、私の人生において大きな財産になりました。また、異文化交流としてフロアバレーボールを紹介できたことは、このスポーツを世界に広めたいという目標の第一歩になったと強く感じました。そして、発展途上国で視覚障がい児教育を充実させるという私の夢を実現できるように、これからも努力していきます。



廣田 成美さん

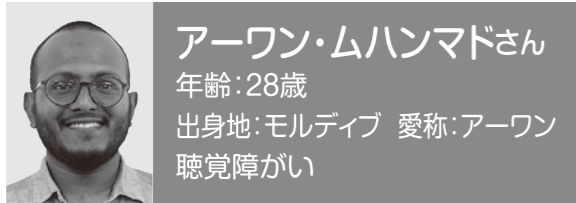


私の夢でもある「フロアバレーボールを日本で普及させ、そして世界で広める」ためには、英語という言語のツールが不可欠です。ホームステイや野外活動などを通して現地の人とたくさん話すことで、英語の魅力を感じ、英語の学習意欲が高まりました。研修ではたくさんの方のお話を聞き、その方の考え方をすることで、私自身の研修の目的にあった「世界観を広げること、将来の選択肢を増やすこと」も実現しました。そして、人とのつながりを大切にすることが大切だということにも気づくことができました。



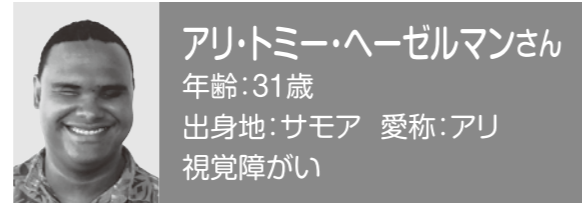
1999年の発足より21年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。応募者168名の中から選出された第21期の4名は、2019年9月24日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが約10ヵ月の研修に臨みました。



アーワン・ムハンマドさん
年齢:28歳
出身地:モルディブ 愛称:アーワン
聴覚障がい

母国では、モルディブ聴覚障害者協会の会長を務めているアーワンさん。今回の研修では、日本のろう協会の組織運営や業務内容をはじめ、手話通訳者養成のための実技指導方法などを学びました。帰国後は、国内の人口が多い3つの島にろう協会の拠点を設立するとともに、手話通訳者を増やすこと、ろう重複障がい者のための就労支援センターを作ることを目標としています。また、障がい者のための情報がなく、身ぶりだけでコミュニケーションを行っている島々を訪れて、知識を教える活動も予定しているそうです。



アリ・トミー・ヘーゼルマンさん
年齢:31歳
出身地:サモア 愛称:アリ
視覚障がい

かつてパートタイムでラジオアナウンサーとして働いていたアリさんは、現在2つの障がい者支援団体に所属して、視覚障がい者の人権の擁護や福祉サービスの向上に関する活動に従事しています。日本では、点字図書や録音図書、DAISY図書の製作など視覚障がい者への情報提供、支援機器などについて研修。帰国後は、サモア映画などの音声ガイド事業を行いたいとのことで、音声は自国のプロのアナウンサーに依頼する予定。また、南太平洋の小さな国々にDAISY図書を紹介し、普及させることも目標にしています。



- カザフスタン 2名
- タジキスタン 2名
- キルギス 1名
- アフガニスタン 1名
- ウズベキスタン 1名

- ネパール 13名
- パキスタン 9名
- バングラデシュ 6名
- スリランカ 6名
- インド 5名
- モルディブ 3名
- ブータン 1名

- 韓国 6名
- 台湾 9名
- モンゴル 6名
- 中国 4名

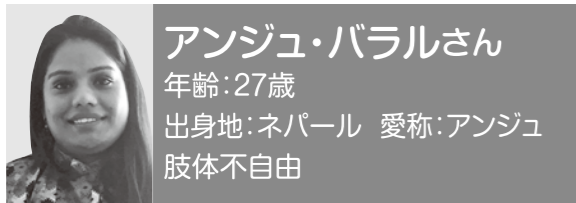
- ベトナム 9名
- フィリピン 10名
- インドネシア 7名
- カンボジア 7名
- マレーシア 6名
- ミャンマー 6名
- タイ 6名
- ラオス 5名
- シンガポール 2名

第21期生 日本での主なスケジュール

- 2019年9月……………開講式
日本語(日本手話)研修
- 2019年12月……………日本語・日本手話成果発表
グループ研修
- 2020年1月……………ホームステイ
グループ研修
- 2020年2月……………個別研修(～5月)
グループ研修(5月～6月)
- 2020年7月……………成果発表会・修了式

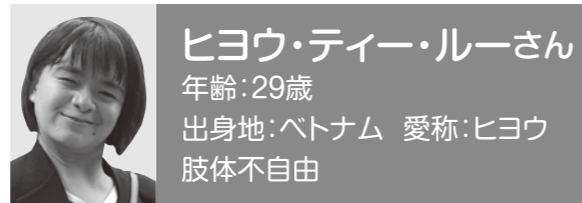
現在までに
29の国と地域から
141名が参加

- パプアニューギニア 1名
- フィジー 5名
- ソロモン 1名
- サモア 1名



アンジュ・バラルさん
年齢:27歳
出身地:ネパール 愛称:アンジュ
肢体不自由

アンジュさんは、自国ネパールでボカラ自立生活センターの理事として、障がいのある人が教育・健康・行政といったサービスを確実に受けるための権利擁護運動に取り組んでいます。具体的には、ピアカウンセリングやロビー活動、支援機器の配布、バリアフリーキャンペーン、自立生活や介助サービスなどのスキルトレーニングを実施。日本の研修では、障がい者が自立生活を送るために必要なノウハウや技術、介助者の養成などを学習。帰国後は、運営するボカラ自立生活センターをもっと強くすることを目指しています。



ヒヨウ・ティー・ルーさん
年齢:29歳
出身地:ベトナム 愛称:ヒヨウ
肢体不自由

ベトナムで活動するオーストラリアの慈善団体で、障がい児や極貧家庭の子どもなどのために活動しているヒヨウさん。研修では、地域に根差した共生社会への取り組みをはじめ、障がいのある人の職業訓練や就労、生活支援などを体験しました。今回、福島県でビジネスを学んだことから、帰国後は知的障がい者を対象とした野菜プロジェクトを立ち上げ、インターネットでオンライン野菜の販売を計画しているとか。その他にも、自立生活プログラムやピアカウンセリングといった活動にも積極的に取り組みたいとのこと。



全国各地で活発な愛の輪啓発活動が行われ、 ご理解とご支援の輪がさらに広がりました。

ミスタードーナツ 第40回フレンドシップフェスティバル



全国10会場で行われた地域大会の愛の輪タイムでは 第38期ミドルグループ研修派遣生による研修報告を実施

今年、記念すべき40回目を迎えた「ミスタードーナツ フレンドシップフェスティバル」。全国10会場で開催された地域大会の愛の輪タイムでは、ロービジョンフットサルの日本代表強化指定選手でもある第38期ミドルグループ研修派遣生が、それぞれイギリスでの研修内容を紹介しました。



地域	研修派遣生	会場
北海道地域	第38期研修派遣生 角谷 佳祐さん	札幌プリンスホテル
東北地域	第38期研修派遣生 角谷 佳祐さん	花巻温泉 ホテル千秋閣
北関東地域	第38期研修派遣生 大平 英一郎さん	伊香保温泉 ホテル木暮
東京地域	第38期研修派遣生 丸山 哲生さん	ヒルトン東京ベイ
神奈川地域	第38期研修派遣生 大平 英一郎さん	大磯プリンスホテル
北陸地域	第38期研修派遣生 角谷 佳祐さん	ホテルアローレ
東海地域	第38期研修派遣生 丸山 哲生さん	名古屋ガーデンパレス
近畿地域	第38期研修派遣生 大平 英一郎さん	神戸ポートピアホテル
中国・四国地域	第38期研修派遣生 岩田 朋之さん	ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル
九州地域	第38期研修派遣生 岩田 朋之さん	オリエンタルホテル博多

ダスキン感謝のつどい

愛の輪タイムで研修派遣生が講演し すわらじ劇園による演劇作品を上演

全国各地で開催された2019年度「ダスキン感謝のつどい」にて、愛の輪の研修派遣生が講演を行いました。また、すわらじ劇園による演劇「父と暮らせば」も上演されました。



地域	研修派遣生	会場
北海道地域	第36期研修派遣生 今岡 称さん	札幌市教育文化会館
東北地域	第36期研修派遣生 高橋 菜美子さん	酒田市民会館
東京地域	第35期研修派遣生 北原 新之助さん	浅草公会堂
東海地域	第30期研修派遣生 片岡 亮太さん	浜松市福祉交流センター
近畿地域	第35期研修派遣生 北原 新之助さん	文化パルク城陽
中国地域	第35期研修派遣生 北原 新之助さん	広島県民文化センター
四国地域	第36期研修派遣生 大藪 光俊さん	西条市総合文化会館
九州地域	第35期研修派遣生 東川 結さん	コンパルホール

ダスキン新春のつどい

全国各地で研修派遣生が講演



- 【東北地域】 1月14日、仙台 勝山館にて、第36期研修派遣生・重田竜佳さんが講演。
- 【北関東地域】 1月9日、ホテル椿山荘東京にて、第38期研修派遣生・岩田朋之さんが講演。
- 【東京地域】 1月10日、ホテル椿山荘東京にて、第35期研修派遣生・北原新之助さんが講演。
- 【北陸地域】 1月9日、ゆのくに天祥にて、第30期研修派遣生・片岡良太さんが講演。
- 【東海地域】 1月16日、ストリングスホテル名古屋にて、第38期研修派遣生・大下歩さんが講演。
- 【近畿地域】 1月10日、ザ・リッツカールトン大阪にて、第36期研修派遣生・今岡称さんが講演。
- 【中国・四国地域】 1月14日、ことひら温泉 琴参閣にて、第35期研修派遣生・北原新之助さんが講演。
- 【九州地域】 1月15日、リーガロイヤルホテル小倉にて、第26期研修派遣生・常瑠里さんが講演。

正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

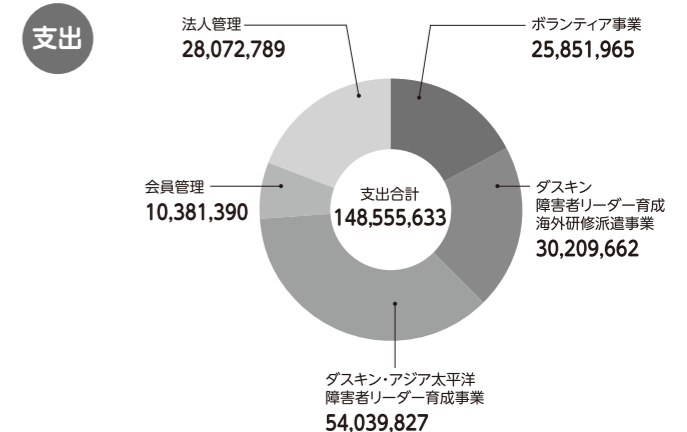
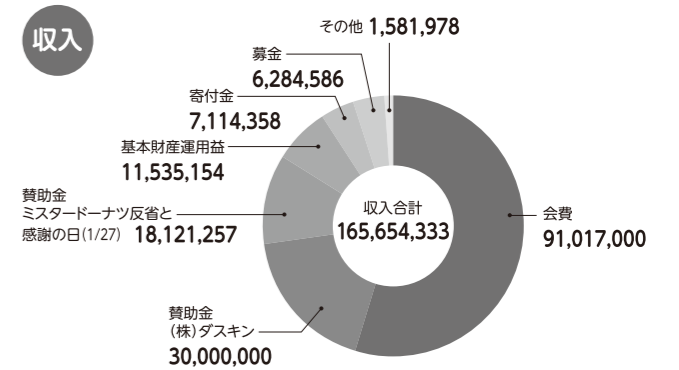
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	11,535,154
基本財産受取利息	
受取会費計	139,138,257
受取寄付金計	13,398,944
雑収益計	1,581,978
経常収益計	165,654,333
経常費用計	148,555,633
当期経常増減額	17,098,700
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	17,098,700
一般正味財産期首残高	99,727,330
一般正味財産期末残高	116,826,030
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	21,794,800
指定正味財産期首残高	1,833,783,000
指定正味財産期末残高	1,855,577,800
III 正味財産期末残高	1,972,403,830

	第37期 2018.3.31	第38期 2019.3.31	第39期 2020.3.31
資産の部			
流動資産	71,650	77,603	87,166
固定資産	1,867,456	1,876,251	1,893,891
資産合計	1,939,107	1,953,855	1,981,057
負債の部			
流動負債	3,038	3,105	1,250
固定負債	16,009	17,239	7,402
負債合計	19,047	20,344	8,653
正味財産の部			
指定正味財産	1,840,342	1,833,783	1,855,577
一般正味財産	79,717	99,727	116,826
正味財産合計	1,920,059	1,933,510	1,972,403
負債及び正味財産合計	1,939,107	1,953,855	1,981,057

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	85,392,645
未収金	286,176
貯蔵品	1,402,455
前払金	78,434
仮払金	6,435
流動資産合計	87,166,145
【固定資産】	
基本財産	1,855,577,800
その他の固定資産	38,313,391
固定資産合計	1,893,891,191
資産合計	1,981,057,336
負債の部	
【流動負債】	
未払金	745,817
前受会費	229,500
預り金	275,350
流動負債合計	1,250,667
【固定負債】	
退職金給与引当金	7,402,839
固定負債合計	7,402,839
負債合計	8,653,506
正味財産	1,972,403,830

収入・支出 単位:円



会員数の推移 2020年3月31日現在 単位:人(件)

	第37期 2018.3.31	第38期 2019.3.31	第39期 2020.3.31
法人会員	227	224	221
特定法人会員	469	465	456
エルダー会員	545	523	511
働きさん会員	1,707	1,697	1,668
個人会員A	1,515	1,481	1,492
個人会員B	2,908	2,931	2,898
個人会員C	6,880	6,461	6,558
小計	14,251	13,782	13,804
×イト会員	34	51	47
(累計)	174,053	174,104	174,151
合計会員数	14,285	13,833	13,851
(累計)	188,304	187,886	187,955

第39期(2019年)は、研修派遣生9名を世界各国へ派遣しました。

- 第1期 1981年**
 - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米留学派遣」の記者発表会が行われる。
 - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

- 第2期 1982年**
 - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
 - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。
- 第3期 1983年** ●留学生9名を派遣。
- 第4期 1984年** ●留学生9名を派遣。
 - 「ミスタードーナツ障害者リーダー米留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



- 第5期 1985年** ●留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年** ●留学生8名を派遣。
 - 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。
- 第7期 1987年** ●留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年** ●留学生7名を派遣。
- 第9期 1989年** ●留学生7名を派遣。
- 第10期 1990年** ●留学生10名を派遣。

- 第11期 1991年**
 - 障害者リーダー米留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
 - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。
- 第12期 1992年**
 - 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



- 第13期 1993年**
 - 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

- 第14期 1994年**
 - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
 - 研修派遣生13名を派遣。

- 第15期 1995年**
 - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
 - 研修派遣生10名を派遣。

- 第16期 1996年** ●研修派遣生10名を派遣。
- 第17期 1997年** ●研修派遣生9名を派遣。

- 第18期 1998年** ●研修派遣生7名を派遣。
 - 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- 第19期 1999年** ●研修派遣生9名を派遣。
 - ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



- 第20期 2000年** ●研修派遣生8名を派遣。
- 第21期 2001年** ●研修派遣生9名を派遣。
- 第22期 2002年** ●研修派遣生9名を派遣。

- 第23期 2003年**
 - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
 - 研修派遣生11名を派遣。

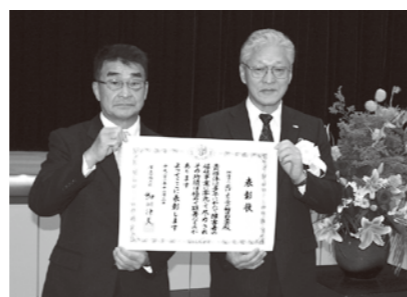
- 第24期 2004年**
 - 研修派遣生12名を派遣。
- 第25期 2005年**
 - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
 - 研修派遣生11名を派遣。

- 第26期 2006年**
 - 研修派遣生12名を派遣。
- 第27期 2007年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- 第28期 2008年**
 - 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
 - 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

- 第29期 2009年**
 - 研修派遣生16名を派遣。

- 第30期 2010年**
 - 研修派遣生27名を派遣。
 - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
 - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



- 第31期 2011年**
 - 研修派遣生19名を派遣。
 - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

- 第32期 2012年**
 - 研修派遣生13名を派遣。

- 第33期 2013年**
 - 研修派遣生9名を派遣。
 - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

- 第34期 2014年**
 - 研修派遣生14名を派遣。
 - 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

- 第35期 2015年**
 - 研修派遣生5名を派遣。

- 第36期 2016年**
 - 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
 - 研修派遣生7名を派遣。

- 第37期 2017年**
 - 研修派遣生8名を派遣。
 - 「ミドルグループ研修」が加わる。

- 第38期 2018年**
 - 研修派遣生8名を派遣。
- 第39期 2019年**
 - 研修派遣生9名を派遣。

■役員

(任期:2019年6月19日~2021年6月開催予定評議員会)

理事	理事長	山村 輝治	(株)ダスキン 代表取締役 社長執行役員
	専務理事	宮原 和之	(株)ダスキン ミスタードーナツカレッジ学長
	常務理事	室山 都子	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	山脇 節子	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばいく 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	松井 亮輔	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長
	理事	關 宏之	(社福)日本ライトハウス 常務理事
	理事	山本 貴之	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	崎野 圭子	ダスキン生産協栄会 理事長
理事	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授	
理事	田門 浩	都民総合法律事務所 弁護士	

(任期:2019年6月19日~2023年6月開催予定評議員会)

評議員	評議員	青柳 紀	(株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長
	評議員	東 正 樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	下 二 朗	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	須田 隆	興隆産業(株) 代表取締役
	評議員	桂 慎 太 郎	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	中尾 知也	ダスキンレントオールヘルスレントコミュニティ会 理事長
	評議員	花島 弘	(社福)日本点字図書館 理事
	評議員	君島 淳二	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事
評議員	佐浦 隆一	大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室教授	

(任期:2019年6月19日~2023年6月開催予定評議員会)

監事	監事	宮田 直人	(株)ダスキン 取締役CFO
----	----	-------	----------------

(任期:2019年6月19日~2021年6月開催予定評議員会)

顧問	顧問	伊東 英幸	元(株)ダスキン 代表取締役会長
----	----	-------	------------------

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2019年4月1日~2021年3月31日)

青松 利明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	小林 洋子	筑波技術大学 講師
青柳 まゆみ	愛知教育大学 准教授	長 瀬 修	立命館大学 教授
金塚 たかし	大阪精神障害者就労支援ネットワーク 統括所長	福田 暁子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員 世界盲ろう者連盟 事務局長
尾上 浩二	DPI日本会議 副議長	小林 昌之	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 主任調査研究員

■ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2019年4月1日~2021年3月31日)

寺島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与	野村 美佐子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与
山口 和彦	NPO法人 居宅移動支援事務所 TOMO 事務局長	村瀬 道雄	(社福)光友会
河村 宏	NPO法人 支援技術機構 副理事長	廉田 俊二	NPO法人 メインストリーム協会 理事長
嶋本 恭規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事	川口 聖	国立民族学博物館 外来研究員

■愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2020年4月1日~2022年3月31日)

北海道地域	吉川 哲也	(株)ダスキンプロンティア 代表取締役
東北地域	稲葉 廣直	(株)アイウェイ イナバ 代表取締役社長
東京地域	川島 商彦	(株)ダスキン三吉屋 代表取締役
北関東地域	齋 義久	(株)ダスキン土浦 代表取締役
南関東地域	渡辺 信義	クリーンスペース(株) 代表取締役会長
北陸地域	長田 信行	(株)ダスキン北陸 代表取締役
東海地域	浅倉 伸治	(株)経真 代表取締役
近畿地域	山形 淳一郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	橋誌 正紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	西岡 正人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	池田 真人	ニップドーナツ九州(株) 代表取締役

めい あい へるぷ ゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう
平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、
心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、
広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、
障害者のニーズを理解し、
ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、
すべての人間が深い絆で結ばれ、
社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>

